

■ 解答・解説

問1 答え＝(例)「祇園精舎の鐘の音には、この世のすべてのものは絶えず移り変わり、いつまでも同じではないという響きがある。沙羅双樹の花の色は、勢いの盛んな者も必ず衰えるという道理を表している。得意になっておごり高ぶっている人も、その栄華は長くは続かず、ちょうど春の夜の(はかない)夢のようである。勢いの盛んな者も結局は滅びてしまい、まったく風の前の(吹き飛ばされる)塵と同じである。」

〔解説〕一文ずつ区切って、①鐘の声＝諸行無常、②花の色＝盛者必衰、③おごれる人＝春の夜の夢、④たけき者＝風の前の塵、という四つのたとえを順に訳すと整理しやすいです。

問2 答え＝この世のすべての物事は常に移り変わり続け、永遠に変わらないものは一つもない、という仏教の考え方。

〔解説〕「諸行(しょぎょう)」＝この世のあらゆる現象、「無常」＝常(一定・永遠)ではないこと。鐘の音が鳴っては消えていく様子に、この無常の響きを重ねています。

問3 答え＝どんなに勢いの盛んな者も、必ずいつかは衰えるということ。

〔解説〕「盛者(じょうしゃ/しょうじゃ)」＝勢いの盛んな者、「必衰」＝必ず衰える。問2の「諸行無常」と対になる、もう一つのキーワードです。

問4 答え＝現代仮名づかい＝「あらわす」。意味(口語訳)＝表す・示す。

〔解説〕歴史的仮名づかいの語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、現代仮名づかいでは「わ・い・う・え・お」に直します。ここでは「あらはす」→「あらわす」となります。

問5 答え＝形容詞「久し」の未然形「久しから」に、打消の助動詞「ず」が付いた形。意味は「長くは続かない」。

〔解説〕「久し」はク活用の形容詞で、「久しから・久しかり/久しく・久し/久しき/久しけれ」と活用します。下に「ず」が続くので未然形「久しから」を選びます。

問6 現代語訳＝(例)「得意になっておごり高ぶっている人も、長くは(その栄華が)続かない。」「おごれる(る)」の意味＝勢いに乗って思い上がる・得意になって高ぶる。

〔解説〕「おごる」は「驕る」で、いい気になって高ぶること。「久しからず」は形容詞「久し」の未然形＋打消「ず」で、「長くは続かない」の意味です。

問7 答え＝(例)「ちょうど春の夜の(はかない)夢のようである。」

〔解説〕「ただ」＝ちょうど・まるで、「ごとし」＝～のようだ。短くはかなく消える「春の夜の夢」に、おごる人の栄華のはかなさをたとえています。

問8 答え＝品詞＝助動詞(比況の助動詞)。活用形＝終止形。意味は「～のようだ」。

〔解説〕直前の「(春の夜の)夢の」を受けて「夢のようだ」となります。「ごとし」は「～のごとし(～のようだ)」の形でよく問われる比況の助動詞です。

問9 答え＝(例)「勢いの盛んな者も結局は滅びてしまい、まったく風の前の(吹き飛ばされる)塵と同じである。」

〔解説〕「たけき者」＝勢いの盛んな・荒々しく強い者、「ほろびぬ」＝滅びてしまう、「ひとへに」＝まったく・ひたすら。風に吹き飛ばされる塵に、滅びのはかなさを重ねています。

問10 答え＝勢いが盛んだ・荒々しく強い (いさましい)。

〔解説〕「たけし (猛し・健し)」は、勢いがある強く荒々しいさまを表す形容詞です。「たけき者」で「勢いの盛んな者・強い者」となり、前の「おごれる人」と響き合っています。

問11 答え＝品詞＝副詞。意味は「最後には・結局」。

〔解説〕「つひに」は「終に・遂に」と漢字で書きます。現代仮名づかいでは「ついに」と読む点もあわせて確認しておきましょう。直後の「は」は強めの働きをする係助詞です。

問12 答え＝品詞＝助動詞 (完了の助動詞「ぬ」)。意味＝「～てしまった・～てしまう」。活用形＝終止形。

〔解説〕「ほろび (滅び)」は上二段動詞「ほろぶ」の連用形で、その下に完了の「ぬ」が付いています。打消の「ず」(未然形に付く)とまぎらわしいので、上の語が連用形か未然形かで見分けます。ここは連用形＋「ぬ」なので完了です。

問13 答え＝(例)「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」と「沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす」。

〔理由・解説〕「祇園精舎の鐘の声」と「沙羅双樹の花の色」、「諸行無常の響き」と「盛者必衰の理」というように、**組み立て (語の並び方) が同じで、意味の上でも対応する二つの句を並べているので対句**といえます。対句はテストで最頻出なので、必ず指摘できるようにしておきましょう。

問14 答え＝(例)「おごれる人も久しからず」と「たけき者もつひにはほろびぬ」。または「春の夜の夢のごとし」と「風の前の塵に同じ」。

〔解説〕語の組み立てが同じで意味の上でも対応していれば対句です。冒頭はこのように、いくつもの対句を重ねてリズムと無常のテーマを強めています (どちらか一組を正しく抜き出せば正解)。

問15 答え＝七五調。

〔解説〕七音と五音の組み合わせを基本とするリズムで、声に出して読むと整った調子が感じられます。『平家物語』が琵琶に合わせて語られたことともつながっています。

問16 答え＝無常観。内容＝この世のすべてのものは絶えず移り変わり、永遠に続くものはない、という人生・世の中に対するものの見方。栄えている者もいつかは必ず滅びる、というはかなさの感覚を指します。

〔解説〕『平家物語』全体を貫くテーマであり、「諸行無常」「盛者必衰」と結びつけて押さえましょう。

問17 答え＝(例) 物語全体の主題である「無常観 (おごる者・栄える者も必ず滅びるというはかなさ)」を、はじめにまとめて示す序章 (総論) の役割を果たしている。

〔解説〕この後に語られる平家一門の繁栄と滅亡の物語を、あらかじめ一つのテーマでつらぬくための「導入」になっています。

問18 【文学史】 答え＝鎌倉時代 (鎌倉時代前期)。

〔解説〕『平家物語』は平家 (平氏) 一門の繁栄と滅亡を描いた物語で、鎌倉時代に成立しました。作者は未詳ですが、『徒然草』には信濃前司行長 (しなののぜんじゆきなが) が関わったとする説が記されています。

問19 【文学史】 答え＝軍記物語 (軍記物)。

〔解説〕合戦や武士の活躍・滅亡を描いた物語のジャンルです。『保元物語』『平治物語』『太平記』なども同じ軍記物語に分類されます。

問20 【文学史】 答え＝盲目の僧＝琵琶法師。その語り＝平曲（へいきょく）。

〔解説〕『平家物語』は文字を読むだけでなく、琵琶法師が琵琶を弾きながら語る「平曲」として、耳で聞く形で全国に広まりました（ここまで覚えられれば万全です）。
